

世界と日本とのギャップを実感 「幹部は男性」というバイアスに気づく大切さ。



1946年に創業。

原薬・医薬事業やライフサイエンス事業に取組み、予防医療の充実を目指す。
世界で初めて、突出した抗酸化力を誇るアスタキサンチンの安定的な商用生産に成功。
絶えずイノベーションを追求し、グローバルに事業を拡大中。

海外から帰国され、日本ではビジネスパートナーがほぼ男性であることに驚かれたそうですね。



インタビューアール



西田 さん

私はオーストラリアの大学院で学んだり、アメリカの子会社に赴任後、日本に帰って社長に就任しました。日本でプロジェクトを進めるときにビジネスパートナーとなる副社長や部長級が、ほぼ男性という現実には大きな違和感を感じました。

アメリカやスウェーデンでのビジネスパートナーの比率は男女がほぼ半々で、女性の方が多い場合もあります。普通に経営していれば自然とそうなっていくんです。女性を取り巻く社会環境や男女平等についての海外と日本の違いを実感し、日本は遅れているなど。自分たちが能動的に動かないと、女性活躍は達成できないだろうというのは強く感じています。

理工系女性の少なさも課題とか。



インタビューアール



西田 さん

医薬や健康食品の開発など化学や工業の分野では理工系の人材が必要で、アメリカやスウェーデンでは理工系出身や大学院、博士課程修了の女性の人材が豊富で、女性比率が高いんです。一方、日本では理工系出身の女性の数が圧倒的に少ない。

当社ではロールモデルとなるような女性幹部を育てていきたいのですが、そもそも理工系の女性が少ないため、採用数もポストも少なくなってしまう。やはり、教育の現場でも性別で理系、文系に分けるようなバイアスを改善することが必要ではないでしょうか。

御社では、女性活躍の観点から、女性の健康課題に着目され、女性社員の低用量ピル費用を補助する、先進的な取組みをされていますね。



インタビューアール



西田 さん

今年の春から女性社員向けの低用量ピルの補助制度を導入しました。

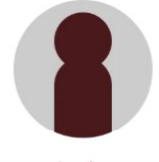
月経による不調を軽減することで社員のパフォーマンスが向上したり、女性活躍推進への理解や気づきが深まることを期待しています。プライバシーは守られていて、社員からも好評です。これは、女性の健康課題の専門家と安全な服用について検討を重ねて実施しているもの。オンライン受診が可能で、1ヶ月あたり上限3,000円の補助がです。

服用についてやアンコンシャス・バイアス、女性のライフサイクルと仕事などについて学ぶセミナーも開催しています。管理職にも参加を呼びかけたところ、予想外に男性の参加者が多く反響がありました。私自身も、さまざまなバイアスに気づきましたし、やはり男女ともに理解を深めていくことが大切。リマインドのため定期的に開催予定です。



女性活躍に関わる社内セミナーに多くの男性社員も参加

御社の女性活躍の状況は？



インタビューアール



西田 さん

以前から、女性の管理職を比較的多く登用してきた社風があり、アメリカの子会社では富山出身の女性がトップとして活躍していました。その方による英語の勉強会を定期的に開催しています。英語を使う海外物流の部門では女性社員の割合が7割ほどと高いですよ。

当社では育児休暇や時短勤務など、男女問わず働きやすい制度や、大学院進学など平等な成長の機会を提供しています。今後も健康経営を目指しながら、やれることは全部やるというフットワークの軽さで女性活躍を推進したい。それによって魅力的な会社になり、いい人が集まってくる。そんなサイクルをつくりたいですね。



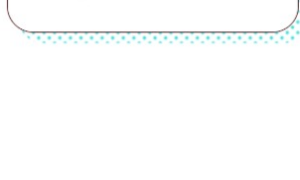
性別を問わず活躍を後押しする職場環境

経営者だけでなく、社員を含めた会社全体で気づきを深めていくことが企業の成長につながるかも！？



アルカモ

その他の取組み・企業情報はホームページをご覧ください。



[企業の取組みから着想した漫画も公開中](#)

